

(基本理念)

「離れていても松阪と関われる」「松阪が好きになる」 ……社会的つながり

新型コロナウイルスは、人々の価値感を大きく変え、また、テレワークやリモートワークなど働き方も変わりました。

進学で松阪を離れ、そのまま地元に戻らず就職する、という話は、地方都市にはよくある話であり、「地元はどうか」と心のどこかで故郷をいつも気にしながらも、離れたところで暮らしている人も多いと思います。また、今回の新型コロナで、移動の制限により帰りたくても帰れない人、旅行などで訪れたいと思っても行けないという方も沢山おられたと思います。

こうした状況のなか、第22回松阪市政推進会議において、今こそ社会的つながりが求められていること、特に人生の節目において寄り添ってくれる心のふるさとのような存在が大事なのではないかというご意見をいただきました。

過去に松阪から離れられた方だけでなく、これから松阪を離れるかもしれない方、住んだことがなくても松阪のことを気にかけていただける方、そうした方が「松阪と繋がりを持つ方法」はあるのだろうか。そして、それは「離れたところからでも可能なのだろうか」との思いから、離れていてもずっと、「松阪」と繋がっていられる方法について、皆さまのアイデアを募集いたします。

離れていても、松阪に愛着や親近感を持ってもらうことにより、人生の“節目”で訪れてもらったり、関係人口や交流人口、将来的に移住の選択肢に繋がる可能性もあるとともに、松阪の魅力をより知ってもらうことにも繋がると考えます。